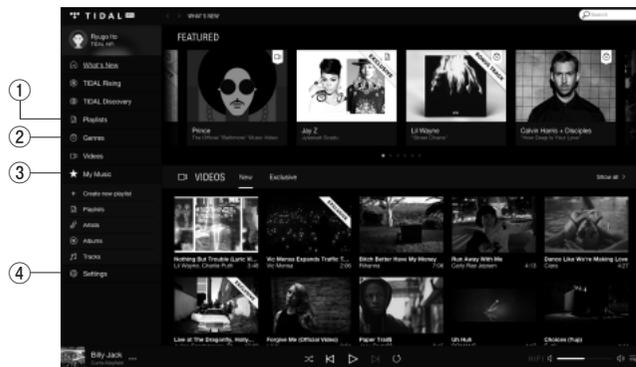


3000万曲の大海 TIDALはこうして使う



←タイダル (PC用) アプリのトップ画面。アカウント登録してログインすると、左上に名前とプロフィール画像が表示される。アカウント名の下にあるのは料金プラン。月額19.99ドル (米国) で44.1kHz/16ビット (1411kbps) のFLACファイルを配信する「TIDAL HiFi」と、月額9.99ドルで最大320kbpsのAACファイルを配信する「TIDAL Premium」というふたつのプランが用意されている。おもなメニュー構成は他のストリーミングサービスと大きくは変わらない。基本的には右上の検索窓にアーティスト名などのキーワードを打ち込めばいいのだが、各ジャンルのスペシャリストやタイダルのスタッフが選曲したプレイリストが並ぶ①「Playlists」や、21の音楽ジャンルに分けてプレイリストや新作を表示する②「Genres」なども聴きたい音源に辿り着くための入口として活用できる。自分だけのライブラリーを構築するために活用するのが③「My Music」。気になるアーティストやアルバム、プレイリストに「Favorite」マークをつけることですべてがここに集まり、あたかも楽曲を「所有」したかのような気分になれるが、役割としてはインターネットブラウザの「ブックマーク」や「お気に入り」と同じと言える。④「Setting」では音質設定などを行なうことができる。

① Playlists

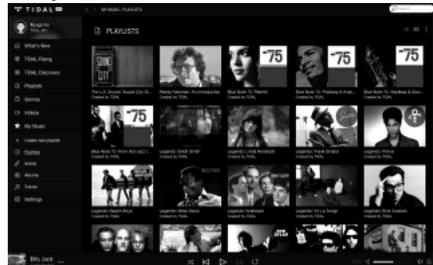


② Genres



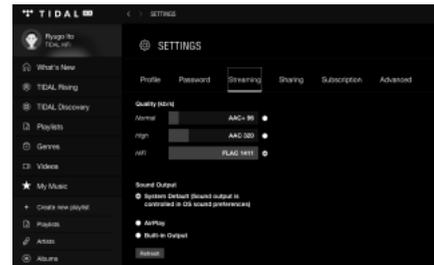
←①「Playlists」では、「Relax」「Party」「Workout」など12の目的別にプレイリストが分類されている。たとえば「Party」には、70年代ソウルを集めた「Funky Friday」や80年代ポップスを集めた「80s Dance Floor」といった切り口のリストが揃っている。②「Genres」では、音楽ジャンルが21種に分けられており、各ジャンルの人気のコンテンツを一覧できるが、聴きたい音源がはっきりしている人の場合、使う必要はそれほどないかも

③ My Music



←③「My Music」では、右の写真のように気になるプレイリストを集めておくことができる「Playlists」などもあるが、ライブラリー構築の上でもっとも重要な項目は「Artists」。ここですべてを管理するのがいちばん使いやすくないはずだ。検索してヒットしたアーティストに片っ端から「Favorite」をつけていくことで、クラウド上に自分だけのライブラリーを構築していくことができる

④ Settings



←④「Setting」では、個人情報の管理のほか、音質設定などを行なう。左の写真の「Streaming」の項で配信音源のクオリティを選べる。「TIDAL Premium」の会員は「High (AAC 320)」まで、「TIDAL HiFi」の会員は「HiFi (FLAC 1411)」まで選択することができる。後者の会員であれば常時「HiFi」で問題ないが、もちろん通信状況などに応じて「Normal」や「High」に切り替えることは可能だ



笑いと涙が止まらない！ TIDAL 1ヵ月実使用レポート

Topics & Reviews *audio* components
伊藤隆剛

13ページのコラム、134ページからの和田博巳さんの記事を受けて、ここでは噂のロスレス定額ストリーミングサービス=TIDAL (タイダル) の概要と、1ヵ月にわたって実際に使ってみたインプレッションをお届けしたい。「3000万曲をCDクオリティで聴き放題」というサービスが、音楽ファンのリスニング生活にもたらすものとは？

わが家のデジタルオーディオのソース機器は、もっぱらネットワークオーディオプレーヤーだ。手持ちの音楽ソフトで一番数が多いのはCDだが(約7割。残る3割はハイレゾファイルとアナログレコードが半々くらい)、ディスクプレーヤーでCDを再生することはほとんどなく、PCでリッピングしたファイルをNASに保存して、それをリンのマジックDNSで再生している。

5月に引っ越しをしたので、ちょうどいい機会だとNAS内の散らかったデータを一部リッピングし直したりして整理を進めていたのだが、KT編集長にその話をしたところ、「だったらTIDAL(タイダル)を始めようがいいよ。ほんと、ジャンル変わるから」とひと言。タイダル……？あのジェイZ&ビヨンセ夫妻が買収した配信サービスが、どうしてリッピングの話と結びつくのか。しかもなぜジャンルが変わってしまうのか。そこまではよく考えないまま、とりあえずあえず買った手順で無料トライアルにエントリーし(これについては後述)、PC用とiOS端末用のアプリをそれぞれにダウンロード(※)。軽い気持ちで使い始めてみた。

結論から言ってしまうと、ロー

カルストレージにコソコソと自分のライブラリーを溜め込んでおくそ笑んでいる僕のようなタイプのリスナーにとって、タイダルの登場は本当にジャンルを変えてしまおうような一大事だと感じた。と言うかこの1ヵ月、とにかく笑いと涙が止まらない。これまで時間をかけてリッピングしてきた&これからリッピングしようと思っていたCDの音源が、かなり高い確率でクラウド上に当たり前のよう存在し、しかもそのクオリティは手持ちのCDと理屈の上ではまったく同じなのだ。これが日本に正式にサービスインしたらエラいことになる……まことしやかに囁かれるその噂が決して大げさではないことを、身をもって実感している。

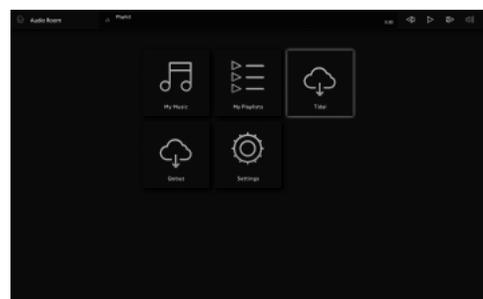
いろんな意味で「タイダルがヤバイ」ということは、前述のKT編集長や和田さんの記事を読めばよく分かってもらえるはずだ。なので、ここではもう少し冷静にタイダルというサービスを見つめながら、実際に使ってみて感じたことなどを正直に書き連ねてみようと思う。

開いた口がふさがらない 今までにない驚きが続く日々

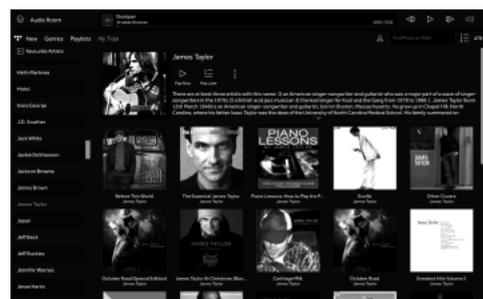
5月27日にAWA、6月11日に

LINEミュージック、そして6月30日(日本時間の7月1日)に大本命とされるアップル・ミュージックが相次いでサービスを開始。業界最大手にして全世界に7500万人のアクティブユーザーを持つスポティファイの動向こそはつきりしないものの、音楽配信鎖国(©和田さん)の日本にも、いよいよ本格的に定額制音楽ストリーミングサービスの時代がやってきた。僕はとりあえずAWAとアップル・ミュージックの無料トライアルを始めてみたのだが、特に後者は触れ込み通りの楽曲の充実ぶり、既存のiTunesライブラリーとのマッチング(＝自分のライブラリーとクラウドのシームレスな連動)など、これはすごいと唸らされるところが多い。「え、こんなもまで聴けちゃうの!」という驚きなら、これらを使うだけで十二分に体験できるだろう。この手のロクシー音源によるストリーミングサービスに本誌読者の皆さんがどれくらい食指を動かしてくれるかは分からないが、思った以上に「遊べる」ということは断言できる。で、それらに引けを取らない使い勝手のよさを持ちながら、音質面で44.1kHz/16ビットのCDクオリティを実現したのがタイダル、という

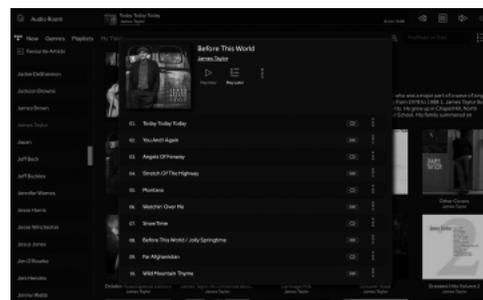
リンDSシリーズならばさらに便利！ NASのライブラリーとTIDALを同等に扱える



↑DSのコントロールアプリ、Kazooのトップ画面。「My Music」「My Playlists」は、NASに保管するファイルへアクセスする入口。「Tidal」がそれらとまったくシームレスに扱われていることが、画面を見るだけでお分かりいただけるはずだ



↑ユーザーインターフェイスはタイダルアプリと構成要素が異なり、動画を扱う「Videos」などは当然省略されている。左上のメニュー「My Tidal」から「Favorite Artists」を選択し、聴きたいアーティストへアクセスするのが基本的な操作の流れになる



↑聴きたいアーティストのアルバムを選択すると、収録曲などが表示される。各曲の右横に表示される「CD」は、音源がCDクオリティであることを指す。ここまでの操作手順は、NAS内の音源を「My Music」から再生するのとはほぼ同じだ

ユーザーが限定される組合せなのでコラム扱いとしたが、リンのDSシリーズとタイダルの相性はすこぶるいい。世界最速と言っていいスピードでタイダルへの対応を明言し、今年1月にはコントロールアプリのKAZOO（カズー）にタイダルとの連携機能を追加。しかもその操作性がまた、恐ろしくなるほどスムーズなのだ。

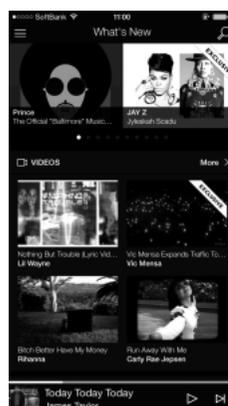
トップ画面の写真を見てもらえば分かるように、リッピングファイルやハイレゾファイルを格納する「My Music」と「Tidal」がまったく並列に扱われており、何の分け隔てもなく連続で再生できる。これは、タイダルという3000万曲の詰まったクラウドが自身のメイン・ライブラリーになり、ローカルのストレージである「My Music」が、それを補うためのサブ・ライブラリーになることを意味している。写真の通り、フランスのロスレス配信サービス「Qobuz（クーバス）」にもすでに対応済みということで、リンの先見性はやっぱりスゴすぎる。

このKAZOO+DSの組合せでリッピング音源とタイダルの音源を聴き比べてみると、わが家の環境では両者の違いがほとんど分らなかった。逆にPC用タイダルアプリ+USB DACの組合せで出力した音は、リッピング音源と比べてやや平坦でのっぺりした感じに聴こえる。音質やマッチングのシビアな検証は、次号以降さらに進める必要がありそうだ。（伊藤）

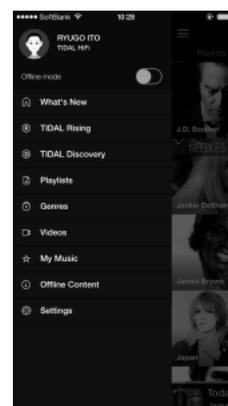


↑DSの本体パネルには「44.1kHz/16bits」の表示のほか、曲名とアーティスト名がスクロールで表示される。これも「My Music」での再生と何も変わらない

Android / iOS対応 モバイルでも利用できる



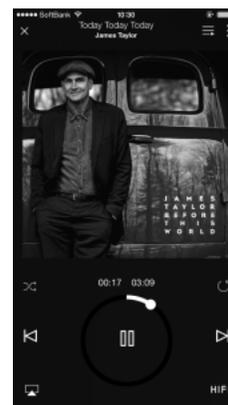
↑iOS用アプリのトップ画面。表示される要素はPCと同じ。最下部に再生中の音源のステータスが表示されるのも同じだ



↑右へスワイプすると、PCアプリの左端と同じメニュー画面が表示される。加えてオフライン再生モードのON/OFF切替ボタンも見える



↑「My Music」内の「Artists」画面。ソート方法は、アルファベット順か追加した日付順のどちらかを選択できる



↑最下部をタップすると、フル画面でプレーヤーが表示される。AirPlayボタンなどが並んだ、ごく一般的なものだ



リスニングスタイルに 変革を起こすTIDAL使用レポート

ことになる。詳しくは別掲の写真とキャプションをご覧ください。タイダルにはPC用アプリとスマホ用アプリがある。どちらも操作系統はほぼ同じで、基本的には検索窓からお気に入りのアーティストを見つけて、「フェイバリット」にひたすらマーキングしていけばいい。そうするとアマゾンの「こちらの商品もおすすめ」と同じような感じで関連アーティストがズラッと表示されるので、そこでもせっせとマーキングをしていく。その作業を繰り返すだけで、数年かけてローカルストレージに構築してきたライブラリーに近いも

のが「マイ・ミュージック」の中にでき上がり、PCでもスマホでもその音源を自由にクラウドからストリーミング再生できるようになるというわけだ（スマホではオフライン再生も可能）。その仕組み自体は他のサービスと大きく変わらないし、特に突出した善し悪しがあるわけでもない。ただ楽曲数においては、年内までに500万曲前後を目標とするAWAやLINEミュージックを大きく引き離し、タイダルは公称3000万曲のアップル・ミュージック（たぶん日本で聴ける音源はもっと少ない）と同じ3000万曲を謳っている。3000

万曲という数をどう捉えるかは人それぞれだが、少なくとも僕の場合、手持ちのCD約5000枚のうち3000枚くらいまではダブっているかも……という感触を得た。とにかく検索するアーティストのヒット率が異様なほど高い。音質的向上を図ってリッピングし直したばかりのジョニ・ミッチェルやジェイムス・テイラーの主要アルバムはもちろんのこと、フォークで頑張って落札したボブ・ディランのカーネギー・ホールのライブ、「これは配信じゃ手に入らないだろう」と購入したダニー・

ハザウェイの4枚組ボックスやビル・エヴァンスの「ヴェイレッジ・ヴァンガード」3枚組完全盤、高価で手が出せなかったビーチ・ボーイズの50周年記念6枚組ボックス、それにリリースされたばかりのローリング・ストーンズ「スティッキー・フィンガーズ」のスーパーデラックス・エディションまで。それは「！」「……」が交互に延々と続くような心境であり、リアルに開いた口がふさがらない日々が続いている……って、全然冷静じゃないですね（汗）。すみません。

あくまで日本未上陸 ここは何とももどかしい

まあ、そうは言っても、現状日本には未上陸のわけで、それに伴う問題もいくつかある。ひとつはアカウントを取得するまでの手続きの面倒さ。KT編集長と和田さんは渡米の際に運よく取得できたようだが、特にそんな予定もない僕の場合は、現地に住む日本の友人にメールでお願いした。しかしクレジットカードの番号を教えられるような間柄の友人が海外にいるケース自体レアなので、ハイレゾ配信サイトのHDトラックと同様、入会や決済に関しては「自己責任で」というこ

とわりが必要になってしまつ。受けられる恩恵が大きい分、奥歯に何か挟まったような物言いをしなければならぬのは、ちよつともどかしい。日本未上陸に伴う問題としては、邦楽アーティストの音源が含まれないことも挙げられる（坂本龍一やコーネリアス、音質重視の良心的ジャズレーベル「T5 JAZZレコーズ」の作品など、一部の邦楽はアップされている）。Jポップしか聴かない、という人だっているだろうから、こればかりは「じゃあ自分にはカンケーないや」と言われれば返す言葉がない。僕の場合も先ほど「手持ちのCD約5000枚のうち3000枚くらいまではダブっているかも」と書いたが、残りの2000枚の中かなりの数の邦楽が含まれていたりするから。タイダルがいつ日本に上陸するのか。どのくらいの人に受け入れられるのか。いずれはハイレゾのストリーミングも始めるのか。気になることはいろいろあるが、続報は次号以降でも逐一お届けしていきたい。定額ストリーミングサービスという今後止められない流れの中で、タイダルの有する「ロスレス」という付加価値は、決して小さいものではないはずだ。